

農作物生育概況

令和4年5月20日現在

<作物>

水 稲：田植えは5月9日頃から開始され、概ね順調に行われており、最盛期は5月24日頃と思われる。5月初旬まで高温で推移したことから、ムレ苗やヤケの発生が多く見られる。

小 麦：中野市の11月上旬に播種されたゆめちからの出穂は5月16日、飯山市10月上旬播種のゆめちからは5月末と推測される。

当初、雪腐れによる穂数減が心配されたが、現在は概ね回復している。

<果 樹>

全 般：本年は凍霜害の被害はほとんどなかったが、開花のタイミングや受粉環境の違いなど園地によって結実状況が異なっている。また、一部の園地では冬の寒さや樹勢の影響と見られる枝枯れ症状が散見されている。

山際の園地を中心にマイマイガの食害が散見されるが、摘果等により対応できる程度である。

りんご：生育は平年並みとなったが、園や樹の中でも開花がばらつき、早く開花したものと遅れたものとの果実の大きさに顕著な差が生じている。また、園によっては「ふじ」のカラマツ症状が散見されるが、結実量への影響はないと見られる。

ぶどう：登熟不良に起因すると見られる不発芽や発芽の不揃いが散見されるが、生産量への大きな影響はない見込み。生育は平年よりやや早く進んでいると見られ、露地栽培では誘引作業が進められている。品種ごとの生育の差が平年より小さく、今後、管理作業の重なりによる作業の集中が懸念される。

「シャインマスカット」の花穂異常症についても発生の有無が判別できる時期となり、誘引作業や今後の花穂管理において発生状況を確認し、品質向上に努める。

現時点では病害虫の目立った発生は見られていない。

核果類：4月当初の生育は平年より1週間程度遅れたが、満開は平年並み～やや早くなった。スモモでは、満開期に気温が低く推移したことなどから、一部で受粉環境が整わなかったが、核果類全体では結実が良好となっている。

病害では、モモせん孔細菌病の春型枝病斑が少ない一方で、モモ灰星病（花腐れ）、モモ縮葉病、スモモふくろみ病の発生が見られる。

気温が高めで推移しており、乾燥傾向であることから今後、シンクイムシ類の発生に注意が必要である。

な し：日本なし「南水」の満開はほぼ平年並みとなり、着果量は確保できる見込みである。西洋なし「ラ・フランス」の結実も良好である。

<野 菜>

アスパラガス：中野市のハウス半促成作型では5月連休明けから収穫を打ち切り、立茎が始まった。露地では4月下旬から収穫が始まったが、5月上中旬の朝晩の冷え込み

により萌芽は昨年並みと見られる。

白ネギ：早期出荷をねらって4月下旬から定植が始まり、5月中旬から6月中旬まで定植が行われる。

果菜類：露地きゅうり・ズッキーニが5月中旬から定植が始まっている。

<花 き>

シャクヤク

全域：凍霜害等の被害もなく品質は良好。切花本数は平年並みに確保できる見込み。

岳北：朝晩の冷え込みや5月上旬～現在の気温が低く、生育が7～10日程度遅れている。

岳南：露地作型の出荷期。25日～27日が出荷ピーク。その後は晩生品種が切れ始める。山ノ内町の高標高地の露地物は7～10日程度遅れている。

トルコギキョウ

出蕾期。1週間程度生育遅れている。枝整理・花蕾整理は6月上旬から始まる予想。昨年度、土壌消毒（クロピク）を実施した場では立枯病の発生少ないが、土壌還元消毒のみの生産者のほ場では立ち枯れの発生が見られる。